平成３０年度　第２回　吹田市立男女共同参画センター運営審議会議事録

１　日時　　平成３１年２月１９日（火）午後３時～５時

２　場所　　吹田市立男女共同参画センター　２階第１会議室

３　出席者　　〈審議会委員〉

浅芽委員、有澤委員、上田委員、大下委員、奥村委員、金子委員、坂手委員、

白江委員、田中委員、丹波委員、溝上委員、森本委員、薮谷委員

〈事務局職員〉

横山人権政策長、杉男女共同参画室室長、畑澤男女共同参画センター所長、

柴野男女共同参画室参事、吉岡男女共同参画センター所長代理、

和田男女共同参画センター主査、古澤男女共同参画センター係員

４　傍聴者　　なし

５　議題　　（１）男女共同参画センターの運営状況について

（２）その他

【議事内容】

（人権政策長あいさつ）
（会の成立要件について報告）
（欠席の連絡）
（傍聴の有無）
（資料説明）

会　長：それでは次第のとおり進めさせていただきます。まず、議題１、男女共同参画センターの運営状況について、事務局から説明を受けます。

事務局：（資料に基づき説明）

会　長：ありがとうございました。事務局から説明がありましたが、御質問等がございましたらお受けしたいと思います。

委　員：平成２８年度の男女共同参画センター（以下：センター）の研修室の利用率が上がっているのはなぜですか。

事務局：研修室は平成２８年度から稼働率の集計方法を変更しました。利用率がその後下がったのは、新しい公共施設が南千里や千里山にできたこと等が要因かと思います。

委　員：ユースリーダーを活用されて中学校のデートＤＶ出前授業をされているとお聞きします。昨年度以上に講座を受けた方が増えています。何かきっかけとかアピールしたことはありますか。

事務局：職員が全中学校１８校に出向き、デートＤＶ出前授業のＰＲをしました。結果、前年度から５校増えて８校から申込みをいただきました。８校のうち、１校は学校で風邪が蔓延して、残念ながら取消となりましたが、７校で実施しました。又、ユースリーダーにつきましては、大学のＤＶ講義の際、活動の募集を呼びかけて３年になります。他に、センターにインターンシップで来た大学生も養成講座を申し込んでくれて、出前講座で活躍しています。

委　員：身近な大和大学でデートＤＶの出前授業をされていないのは、大学が福祉的なことをされているからですか。

事務局：お話は大和大学にさせていただいておりますが、授業のカリキュラムが複雑で時間的に難しいと聴いています。ただ、教育学部の学生が養成講座に来てくれて、ユースリーダーとして活躍してくれています。

委　員：地域フォーラムのちらしのデザインがいつもと違ってきれいな感じがします。作っている人がいつもと違いますか。

事務局：地域フォーラムのちらしは、センターの参画スタッフの市民の方が作成したものです。

会　長：かわいいデザインですね。私もいつもと違うなと見ていました。

委　員：保育室の利用はどうなっていますか。

事務局：貸館につきましても保育室の利用があります。講座についても保育付きをできるだけ実施しています。

委　員：保育付きの講座は、子育て中の方には有効だと思います。

事務局：夜間の講座を除くと保育を付けなかった講座は１つだけです。その講座も小学生のお子様と一緒に受講できるものでした。

委　員：地域フォーラムの「家族で家事シェア講座」は男性の講師でした。男性に聴いてもらいたかったのですか？備考のところに夫婦でどうぞとかあってもよかったのではないですか。リード文にある家事に育児、きちんとできていない自分にイライラ、手伝ってくれない家族にイライラは、主に女性側かなと思います。シェアを男性といっしょにするなら、手伝ってが、かりかりとする言葉なので、２人でシェアしてよい関係を男女でどうしていくのかだったら、リードも違った形となります。家事は２人ですればスムーズにいくし、時間もできることを講師の方は言われたと思いますが、手伝うじゃなく、協力し合うがよいと思います。誰に来てほしいのか、ばらつきを感じました。あと、「アタッチメントの大切さを知ろう」どんなアタッチメントか探しますがありません。

事務局：　「アタッチメントの大切さを知ろう」は、児童部主催の講座ですので、参考資料にはありません。家事シェアは平日の開催で、家事シェアに罪悪感を持つ女性が多いことから、まずは女性に自分一人で抱え込まないで、家族全員で家事をすれば、女性が楽になり、家族が元気になると思い企画しました。実際は男性の講師で、男性にも聴いてもらいたかったと思いました。

委　員：ちらしの地域保育スタッフ養成講座と参画スタッフ養成セミナーは、参考資料のスタッフ研修の参画スタッフ全体研修会と違うものですか。

事務局：地域保育スタッフと参画スタッフ養成セミナーは、新たにスタッフとして活動していただく方向けの講座ですが、地域保育スタッフと参画スタッフになっていただいた方に、スキルアップ講座としても実施しています。

委　員：情報ライブラリースタッフ、広報スタッフも１回ずつ研修をされています。

事務局：情報ライブラリースタッフ、広報スタッフもスキルアップとして１回ずつしました。既に、活動中の参画スタッフは、センターが主催する地域保育スタッフ養成講座と参画スタッフ養成セミナー等に、スキルアップのため出ていただいています。

委　員：スタッフ研修の充実についてお聞きします。講師の方が来られるのですか。

事務局：外部講師に来ていただいております。例えば、情報ライブラリースタッフならば、ＰＯＰ文字やちらしの作成の研修をしました。広報スタッフならば、ユニバーサルデザインを学び、誰でも読みやすい記事作りの研修をしました。

委　員：主催講座についてお聞きします。男女共同参画プランに基づき、万遍なく対応していて、企画も充実していると思います。意識啓発講座とＤＶ防止対策講座が、充実しているようです。当初は、地域開催講座、市民自主企画講座について、もう少し回数を増やして、市民に参画を募っていく姿勢もあったと思います。なかなか地域の方や市民自主企画の方の御協力が得にくいとか感想があれば教えていただけますか。

事務局：地域開催講座は、例えば、公民館で料理教室をしました。地域フォーラムでは、市民参画スタッフと協働で家事シェアの講座をしました。他に、児童部との共催で、のびのび子育てプラザで講座もしました。保育設備が整っている施設が地域にはあまりなく、外に出ていくときには保育を付けられない等の制約があります。又、市民意識調査でも、センターの認知度が低く、今は市民スタッフの方の友人とかを連れてきていただいて、センターをみなさまにわかってもらう方が大切かと感じています。

委　員：事業者様も含めて、ムーブメントとして最初は動かしていたはずです。難しい時期に来ているので、私も悩んでいます。いけないとか悪いとかそういう問題ではなく、どうすればそういう人たちの層を捕まえて、興味や考えていただけることになるのか悩ましいところです。

事務局：参画スタッフのみなさまには、センターの養成講座を受講し活動していただき、男女共同参画について、地域で広めていただいております。今の時点では、このやり方が一番よいかと思います。吹田市は６つのブロックに分かれ、それぞれ拠点施設があります。特化した問題が各地域にはあり、拠点施設ごとに講座を一つ一つやっていき、委員が御指摘いただいたように、最初はその地域ごとの問題を掘り起こそうとしていました。住民の年齢層もバラバラですし、実際に、講座をやった時に地元の方に来ていただけていないというジレンマもあります。よって、講座の魅力でセンターに来ていただき、認知度を上げようと思っています。

委　員：間違いではないです。参画プランを考えるときに、ＤＶ対策もそうですが、身近な人が気付かないとかわからないとかがあって、地域の協力がどうしても必要となります。他人に関心を持たなくなってしまった世の中で、センターの運営や世の中の状況が、私の悩みでもあるし、運営委員会で考えていくべきものであると思います。ＤＶもプライバシーや閉鎖的な面があり、いろいろな人が関わらないとならないことが多くあります。

会　長：中学校の出前授業も増えていますし、地道な活動を続けて、うまくいっているのはすばらしいことですが、もう少し何かありますか。

委　員：企画は精一杯やっておられると思います。参画プランでもＤＶ防止対策ベースをやっていこうという雰囲気になっており、反映された講座企画になっていると思います。 参画プランを進めようとしても地域になかなか協力者が出てこないこともあります。動ける人が市民の中にいらっしゃると思います。突破口を何とか見つけていければと思います。

会　長：どこが突破口になるかはあると思います。

委　員：突破口という点で、拠点施設の認知度という点で、最近、吹田グリーンプレイスが近くにできて充実してきていると感じます。地理的なことがわからなくてお聞きしますが、吹田グリーンプレイスからセンターへ徒歩で抜けられる道はありますか。

事務局：センターへの抜け道が片山神社側に昔はありましたが、今は閉鎖されています。

委　員：今は、猛暑で暑さをしのげる場所という、うたい方一つで、親子連れで訪れたり、おむつが交換できる場所であったり、勝手に努力とはまた違うデザイン的な発想でいくと広がりやすいという可能性があるのかと思います。「ここにセンターというおむつを交換できる施設がある、図書館がある。」といった充実した施設があっても、迂回しないといけないなら、ショッピングモールに行ってしまうことになります。

会　長：吹田グリーンプレイスにちらしやソフィアを置かしていただけたらと思います。

事務局：吹田グリーンプレイスは市のちらしを置けるようになり、ソフィアも置かしていただきたいと思っております。 他に、イオンは市役所の全部署のちらしが置けるため、順番がなかなか回って来ませんが、センターのちらしがイオンに配架された時は、集客率が上がります。

委　員：吹田の子育てを楽しむ本２０１９年度版があります。センターも掲載されていて、市の施策が掲載されて充実した内容となっております。

会　長：吹田の子育てを楽しむ本を初めて見ました。いつから発行されていますか。

委　員：吹田の子育てを楽しむ本は２０１８年度から始まったもので、市が監修されていますが、充実した内容です。２０１８年度は早々に１万部なくなり、今回は１万５千部発行されました。

委　員：目に留まるという意味合いでは、「はじめてのマインドフルネス講座」は多数の申込ですが、目につきやすい場所に何か掲載されたりしたのですか。

事務局：「はじめてのマインドフルネス講座」はタイムリーな話題で、みなさま関心があったようです。

委　員：「はじめてのマインドフルネス講座」は、定員の３倍の申込がありました。目に留まって結果が出たキャッチコピーは使い回したりされていますか。センターでも精度の高いキャッチコピーがあると思います。それは使い回しをされていますか。又、他の自治体の講座でヒットしたキャッチコピーがあれば、使い回しといいますか、共有する場や方法はありますか。

事務局：キャッチコピーがヒットした感覚は、残念ながらまだありませんが・・・。

委　員：センター同士の交流の場があれば、他の自治体のキャッチコピーをいただいてもよい訳です。池田や豊中や摂津等から情報もいただけるかと思います。

事務局：手前味噌ですが、当センターは他に獲られてばっかりです。センターの講座を真似て、他が二番手、三番手で講座をされます。

委　員：閉鎖的なのですか。

会　長：使い回しというか他の自治体で人気のあった講座をするのではなく、吹田がリードしているというお話を伺いました。この何年かで様々な講座を開催して、今日配っていただいた資料を見ても、応募者数が定員以上になっているものが多くて、先行していると思います。定員割れになった率とかはここ数年で減ってきているとかを調べたりされていますか。

事務局：今のところ、まだそこまでは調べられておりません。

会　長：感触としてはどうですか。最近、開催している講座は市民の関心が高いとか、よいアイデアを出しているという感触ですか。

事務局：時期にもよります。今なら、インフルエンザが流行っていて、中学校の出前授業も一つ取消になりました。講座については、応募者数は多いけど、受講者数は少ないものもありますので、職場会議でもシーズンを見極めて、講座の企画を考えていこうと話をしたところです。又、猛暑の影響もあります。

会　長：季節柄とかいろいろあるかもしれませんけど、講座の回を重ねるごとに改善されていって、世の中のニーズに合ったものが提供できていると資料を見て思いました。数字で出せるとよりよいと思います。

事務局：この審議会で検証しないといけないと御指摘いただいて、業務概要にも載せるようにしています。一つの講座ごとに良かった点と反省点を職員全員で共有して、次はどういう風にした方がよいかについても全員で共有できていると思っています。

会　長：成果は出ていますか。

事務局：しないといけない講座が絶対あります。広報は多方面にいきますが、御指摘いただきますように、センターに気軽に来られない人たちとか、シングルマザーの方とか、一番つながりたいところには、なかなかつながらないのが悩みです。

会　長：保育をありにするかどうかは、どういう基準で決めていますか。

事務局：講座は、高齢者向けや夜間講座以外は保育を全部付けています。ただし、保育スタッフが夜間は集まりません。夜間は就労者向けの講座をしますが、午後７時から午後９時まで小さなお子様を預かるのは、保育スタッフには、夜が遅いこと、長時間になる等、抵抗があると思いますので、夜間は何とか家族でみていただいてと思います。保育スタッフは少ないですが、シングルマザー向けは土日にしようとか工夫しています。

委　員：保育ができないならば、お子様を連れての受講はどうですか。

事務局：講座にお子様を連れて入られるのは、全員がお子様連れならいいのですが、そうでなければいろいろ問題があります。前回０歳児から預かってもらえないかという、審議会での御意見を反映し、「育休から仕事復帰への第一歩」の講座で、１歳以下の子供は会場に連れて一緒に入ることができることにしました。センターは事故のことも考えて、１歳から保育をしたいと思います。ニーズがあることもわかっています。１歳以下のお子様をもっている方向けの講座をしました。みなさまが同じ条件なら、お子様が仮にぐずっても開催は可能かと思います。０歳児を連れているお母さんはどこにも発散する場が少ないので、喜んでいただけました。

委　員：参加率を上げるという点では、ここまで来ることができない方に対して、遠隔的な参加の方法があるかと思います。話をしている内容、書いている文字をデジタル化して、いつでも情報としてスマートフォンで見られるようにすれば、自然にカウントがされて参加率も上がってよいのではと思ったのですが、市の施策としては可能ですか。

事務局：まだ、そのレベルまではいっていません。講師によってはスポットで流すだけでも嫌がる方もあります。

委　員：講師の了解を得る必要はあります。例えば、弁護士会の研修は画像やレジュメについて、「弁護士会に帰属します。」と一筆書きます。画像等は勝手に流してはいけないと決まっています。講師が協力的な人であったら、ｅラーニングとかできるなら、１時間全部は無理としても、空いた時間に見たりするのにはよいと思います。

委　員：既に、子供たちはそういう学びの仕方をしています。体制から考えると難しいとは思いながら発言をしましたが、お父さん、お母さんの参加率は激増すると思います。

会　長：私の職場でも何かシンポジウムをすれば、動画で配信がされます。私立大学では嫌とは言えず、そうしないと置いていかれるところもあります。センターの講座は、同時配信は無

理でしょうから、編集してＯＫであったら、編集してから配信もできます。今はユーチューブとか、学生とかも動画を気軽に編集してアップしています。

委　員：講師もそうですが、参加者の肖像権のこともよく聞きます。

委　員：私は千里丘に住んでいます。ＪＲは２つ駅が離れています。千里丘にもセンターのちらしがあります。電車で２駅乗って、歩いてセンターまで来るのは、遠いと思う人もいっぱいおられます。先程、出前講座の話がありましたけど、著作権付きのＤＶＤとか、映像は取っ付きやすいと思います。映像を見て、問題を知り、「後でどうでしたか」という時間を少し入れれば、知らない間に現実を知り、「これは問題だなとかこんな風になるんだな」と映像を見て理解できます。例えば、ちらしのビッグ・アイズやソニータは一回だけの上映だったのでしょうか。職員や参画スタッフの方が、地域に行って、後のセッションとかの司会とかをされれば、参加者が増える方法もあるかなと思います。一から何かしなくても、ここで上映されたものが、みなさんが感動された作品や「何か考えてもらえたな」という作品をどこの場所でもやればよいと思います。「ここはこういう問題があるからこうしなくては」としなくてもよいと思います。地域のいろいろな所でやれば、お金もかからないでできるとすごく思います。私も公民館とかになかなか行けなかったですが、興味があれば、みなさん来られています。いろんなことを知っていただけたらよいと思います。土日であれば、意識高い方もたくさんおられますので、提案をさせていただきました。

委　員：よい映画をされていますが、誰が選んでおられますか。

事務局：情報ライブラリー担当がリストアップをしています。

委　員：映画を見れば、誰かと話したくなります。わずかの時間でも、最後に話し合いの時間が持てれば、離れた場所でやっても有効だと思います。

委　員：他の男女共同参画センターで、独自の防災のハンドブックを作成されていることがあります。参画スタッフ養成セミナーで、新しい人がどんどん増えていっていると思います。例えば、防災のユースリーダーではないですが、防災の養成講座でハンドブックを作成したり、他に、友人が今年一年、自治会の防災の班に入っていたのですが、なかなか馴染めなくて、辞めてしまいました。地域は男女共同参画の意識がなかなかなくて浸透しにくいです。防災を通じて、地域に男女共同参画の意識を浸透させることは可能かと思います。「男女共同参画の話ですではなく、防災の話です。」と広げていただいて、防災のなかで必要な意識を参画スタッフの方がいっしょに話をするような形をとってもらいたいと思います。ハードルは高いですが提案しておきます。

事務局：センターの職員が危機管理室に異動になって、提案していただいたようなことをしようと動いています。今は地震や豪雨の対応で、ストップしている状態です。男女共同参画の視点からの防災ハンドブックを市全体で作ろうとしています。センターも協力していきたいと思います。

会　長：市民スタッフが入ることで変わっていくと思います。

委　員：女性から見た防災というのは、すごく大事だと思います。我々も自治会のなかで、「防災をどうするのか」と考えています。１月２０日の防災訓練では、自治会の１４３世帯のうち、７３世帯が参加しました。婦人部に「女性の目線の防災のハンドブックを作ってもらえないか。」と依頼しました。女性はきめ細やかで、すばらしいものができると思います。他も、女性からみた防災というものを作っておられます。グループの会でも話をしたことがありますが、参画スタッフの方がたくさんいらっしゃいますので、集めて考えてみるのもよいと思います。今、吹田市でも作っておられますので、市民目線でみるのが大事だと思います。地震以降自治会は防災に関心があります。以前、ソフィアにも防災の記事が掲載されていましたが、もっと広がればよいと思います。

委　員：子育て広場は赤ちゃんを連れてみなさん来られます。ビルの一室ですので、下から火が出たとき、スタッフとしてどうしたらよいかわからなくて、危機管理室に相談をしました。すぐに来てくださって、地震、火事の場合をわかりやすく教えていただけました。逃げる姿勢や持ち出す荷物を実際に持って来られたり、準備等も聴けて、危機管理室は「いつでも呼んでください。」とおっしゃってくださり、私たちスタッフは安心できました。

委　員：避難所をどう作っていくのかというゲームを通じて、男女共同参画を学ぶこともできると思います。

委　員：防災の講座や勉強会があればよいと思います。いざという時に具体的なことがわかっているのは、大事だと思います。防災に関心のある地域の方が、いっしょにここで勉強をして、形に残していくとよいと思います。「子育て中の方はこうだねとか、火事のときはこうとか」、具体的なことが冊子やハンドブックになるとか、いっしょに考える場があってもいいと思います。勉強もしたいし、先進的な話も聴きたいし、どういうことが大事か学びたいです。以前テレビ番組で、段ボール屋さんが東北の震災のとき、「何かできないか」ということで、避難所の敷居を段ボールで作る番組がありました。実用的な所で改善されることを企業もやられていますので、知恵をお借りして、「地域でどんなことができるのか。」を男性だけではなく、女性もどう動くとか、プライバシーをどう守るのかとか、やっているうちにいろんなことがまとまっていく気がします。

委　員：みなさんすごく勉強されていると思いました。防災の冊子は、視察でいった京都の参画センターの女性が作成されたものがよかった印象にあります。

委　員：先日、自治会で３０リットル入る防災用のリュックサックを各家庭に配りました。「ここに何を入れるのですか。」と聴かれました。実際に何を入れたらよいのかわからない方がたくさんいらっしゃいます。本に書いてあっても、本人が知らないことがあります。各家庭で準備物は違います。例えば、食べ物なら便利なものではなく、普段、食べている物を入れた方がよいと聴いたことがあります。

委　員：昨年の大きな災害で防災士の資格をとる方が増えたようです。お母さんがとると子供もとってみようと親子で資格をとることにつながることもあるようです。参画プランにも防災には女性の目線が必要であることが書かれています。災害時、携帯がないと駄目だということで、大学生がボランティアで発電機を提供したりしています。いろんな人を巻き込むチャンスがあると思います。地域に出ていくのはよいと思います。

会　長：「意識が変わってきましたね。」市が作成している防災冊子には、センターの意見が盛り込める形になっていますか。

事務局：盛り込める形にしようということで動いています。まだ具体化はしておりませんが、女性の目線が入ることが必要であると危機管理室には伝えております。

会　長：審議会で出たものですが、市民の声ということで届けていただいて、是非、センターで講座をするようにお願いします。私は地元で留学生と関係があります。市のホームページを見ているとしっかり書いてありますが、留学生は地震のない国から来ていますから、パニックになります。地震があれば、「これからバスに乗って避難しようと思います。大阪から離れます。」と言っています。日本はどこでも地震があると落ち着かせていました。留学生は女性が多くいます。「留学生にも男女共同参画が必要です。」と、とにかく食い込んでいってください。

会　長：他、いかがでしょうか。

委　員：　１３０講座をされるにあたって、コピーや綴じることも含めて、レジュメの作成とかはセンターがされることが多いですか。

事務局：はい、そうです。

委　員：他の勉強会に参加した時に、入口の受付にＱＲコードがあって、レジュメの配布はなく、ＱＲコードを読み込んで席につきました。画期的だと思いました。綴じることもないし、ページを合わす必要もない。例えば、持って帰って、プリントがどこに行ったかと探す必要もなく、スマートフォンの中にあるので、第三者のママ友やパパ友に会ってもすぐに出せます。時間的な能力の削減になると思います。勉強会で習い、地図をＱＲコードで付けることも簡単にできました。オリジナルのＱＲコードが作れることを、つい先日まで知りませんでした。これは使えると思っています。

事務局：紙をなくすことは大切だと思います。公共施設はスマートフォンを持っていない人のことも考えないといけませんが、ＱＲコードはたくさんの人に拡散していただけることになると思います。

委　員：講座は全体的にバランスよくされています。防災のようにみんなが関心のあることを一つのきっかけとして、女性の目で防災の対策について提言していくことは、女性ならではの問題を抱えていることを知ってもらうこと、男女共同参画の視点を知ってもらうこと、二つの視点があるという話だったと思います。地域を考えた時に、地域開催講座ということで、地域に出ていくということと吹田の地域で何が起こっているのかということを知るということがあります、センター全体の講座を見ても、できるだけたくさんの人に来てほしいということで匿名性なのですね。シングルマザー、シングルファーザー、子育て世代に来てもらうとか、特化した人たちに来てもらうことはありますが、吹田の地域性となるとあまり出てこないと思います。先程、防災の話で盛り上がったように、私たちは具体的なイメージ、「あの道はどうなっている」とか具体的なイメージを持っています。吹田の留学生の人たちが住んでいてどういうことを思っているのかは全然知らなくて、でも講座のなかで出てくると知ることができる。もう少し、地域開催講座になるのかはわかりませんが、防災も一つのきっかけに吹田の地域で起こっていること、吹田の地域の人がそこで取り組んでいることをテーマとしてとりあげてみること。防災もそうですが、自治会や市民レベルのノウハウはすごく蓄積されていますが、全然公開されていない。私の地域でも子供食堂、外国人のこと、ＤＶのこと、多世代カフェに関わる方等、結構、活動が多いです。私も見に行ったりします。活動紹介とかもっと特化してもよいと思います。昔は、主催講座の連続講座で活動紹介も兼ねてやったこともあるので、匿名性ではなく、もっと特化してもよいと思います。今は情報通信システムが発展していて、いろんな事を細かく知っている方が多いです。自分の事で精一杯でも、先程の防災のことについても、例えば、「子供さんのミルクをどうするのか」とか私たちもどうするのかと思います。そういった意味で、吹田で起こっていることを講座として入れてほしいと思います。学童保育もいっぱいやられています。例えば、障がい児の子供さんのための学童保育を、空き家を借りてされていたり、他に友達の作り方、婚活等、さまざまなことをされています。情報ライブラリーとかで話しながらするのもよいと思います。

会　長：たくさんの提案や御意見がありました。整理いただき、今後のセンターの活動にいかしていただければと思います。

会　長：無ければ事務局から議題２、その他について、事務局から説明を受けます。

事務局：平成３０年度の吹田市立男女共同参画センター運営審議会につきましては、本日が最後となります。委員のみなさまの任期は、平成３１年６月３０日までとなっているため、今回が現在の委員での最後の審議会となります。現委員のみなさまには、当センターの運営をはじめ、多大な御尽力をいただき、ありがとうございました。引き続きお世話になる方もおられるかもしれませんが、その際にはよろしくお願いいたします。なお、次回の開催につきまして、８月頃を予定しています。日程調整のうえ、追ってご連絡いたします。

会　長：ありがとうございました。本日の審議会はこれで終了します。

以上